

高次脳機能障害者の復職におけるアセスメントの技法開発

○大工 芙実子（障害者職業総合センター職業センター開発課 障害者職業カウンセラー）
三浦 晋也（障害者職業総合センター職業センター開発課）

1 はじめに

障害者職業総合センター職業センター（以下「職業センター」という。）では、休職中の高次脳機能障害者を対象とした職場復帰支援プログラムと、就職を旨とする高次脳機能障害者を対象とした就職支援プログラム（2つのプログラムを総称して以下「プログラム」という。）の実施を通じ、障害特性や事業主ニーズに対応した先駆的な職業リハビリテーション技法の開発に取り組んでいる。

高次脳機能障害は、受障前の自己像との違いへの戸惑いや障害特性等から、対象者が症状又は課題を自覚することが難しい場合が少なくない。また、障害が一見して分かりにくく、脳の損傷部位等により症状の現れ方が異なり個別性が高いため、高次脳機能障害者に対する支援を検討するにあたり、家族をはじめ、事業主、支援者等周囲の者も対象者の状態像を正確に把握することが難しい場合がある。こうした中、支援現場からは、高次脳機能障害者のアセスメントや自己理解の促進に関する技法開発の要望があがっていた。そこで、職業センターでは、令和2年度から3年度にかけて、高次脳機能障害者の職場復帰支援におけるアセスメントをテーマとして、高次脳機能障害の障害特性や多面的な支援課題に関わる情報を網羅的に収集、整理し、関係者間の情報共有や対象者の自己理解の促進、支援課題の明確化、支援方針の検討、また、事業主との連絡調整や事業主支援に資する支援ツールや支援方法等に係る技法の開発に取り組んでいる。

なお、開発の方法として、まず、文献等によりアセスメントや職場復帰支援に係る情報収集を行うとともに、支援機関における高次脳機能障害者に対するアセスメント等の実施状況を把握した。その上で、職業センターでの実践を踏まえた試行モデルを作成し、プログラムで試行するとともに、支援機関においての試行も依頼し、その結果をもとに必要な修正及び改良を行うこととした。

本稿では、開発中の支援技法の一部を紹介する。

2 アセスメントに係る支援ツール

(1) 特性チェックシート

ア 概要

「注意障害」や「記憶障害」など高次脳機能障害の主な症状別に、障害特性が職業生活場面においてどのように現れるか、具体的な事象を質問項目として複数用意し、それに対し対象者の状況が当てはまるかどうか「はい」「ときどき」「いいえ」の3件法形式で回答するチェックシートである（図1）。

イ コンセプト

アセスメントにおいて、医療機関における診断書や神経心理学的検査の結果に示される高次脳機能障害の症状と照らし合わせ、障害特性を日常生活や職業生活上の具体的な行動レベルの困難と結びつけて整理することを狙いとする。また、障害特性の具体的な現れ方を事業主に説明する際、材料としたり、下記に紹介する対処策一覧シートとともに、支援の方向性や配慮事項の具体的な検討につなげる一次資料とすることも狙いである。その他、損傷されている機能だけでなく、残存している機能にも注目することも目指す。なお、時間をおいて複数回実施することで、対象者の障害特性に対する認識の変化を追うことができる。

下記の障害特性について自分に当てはまるかどうか、次の三択で回答してください。

注意障害	持続性	1つのことに長く集中して取り組めない。	はい	ときどき	いいえ
	選択性	周りの音や声に注意が散って作業ができない。	はい	ときどき	いいえ
	分配性	2つ以上の指示をまとめて伝えると、いくつか抜ける。	はい	ときどき	いいえ
	：	：			
記憶障害	エピソード	最近の出来事や食事の内容を思い出すことができない。	はい	ときどき	いいえ
	物と場所	必要な道具の種類や置き場所が覚えられない。	はい	ときどき	いいえ
	道順	受障後に通い始めた場所への道順が分からなくなる。	はい	ときどき	いいえ
	：	：			

図1 特性チェックシート（一部例）

(2) 高次脳機能障害者の職場復帰支援アセスメントシート ア 概要

障害者職業総合センター研究部門が開発した幕張ストレス・疲労アセスメントシート（MSFAS）¹⁾をもとに作成したもので、高次脳機能障害者の職場復帰支援に関わる医療情報や事業所情報、ソーシャルサポート体制、対象者の生活習慣やストレス・疲労のマネジメントの現状といった項目があり、対象者や関係者が所定の選択肢や記述欄に順次記入していくアセスメントシートである。

イ コンセプト

高次脳機能障害者の職場復帰支援を始めるに当たって把握すべき、多面的な支援課題に関わる情報を網羅的に効率的に確認、整理できることを狙いとする。

(3) 対処策一覧シート

ア 概要

前述の特性チェックシートと同じ高次脳機能障害の主な症状別に、職業センターにおける実践や文献調査等を踏まえた具体的な対処策に係る支援事例を、自己対処の工夫と環境調整の工夫の2つのアプローチ別にリストアップしたものである（図2）。

イ コンセプト

対象者や支援者が、障害特性に応じて取り組むべき自己対処策や職場に求める配慮事項を検討する際の参考資料と

なることを狙いとす。

注意障害	
環境調整の工夫	
物理的環境整備	□ 必要以上の刺激が入らないように座席の位置を工夫する、作業場所を壁側に配置する、パーテーションを使って視界を遮る。
疲労のマネジメント	□ こまめな小休憩を認める。
関わり方	□ 指示内容は、一度に一つずつ、ゆっくり伝える。
：	：
自己対応の工夫	
疲労のマネジメント	□ 日々の睡眠など、生活全体の見直しを検討する。
外的補助具の活用	□ ふせん、手帳書、チェック表、アラーム、タイマー、ルーラー、書見台、拡大鏡、老眼鏡などを活用する。

図2 対処策一覧シート（一部例）

3 ケースフォーミュレーションの実施

ケースフォーミュレーションとは、アセスメントを通じて収集した多様な情報を統合しながら支援課題を明確化し、介入方法を組み立てる作業である。また、複雑な情報を図式化することで、情報をまとめ上げ、整理し、解決すべき支援課題や取り組むべき支援方針の見立てを立てる²⁾。

職業センターでは、国際生活機能分類（ICF）の考え方をふまえた図式を使用して、アセスメントにより収集した情報を転記して整理、一覧できるようにし、関係者間で情報共有し、支援課題に係る仮説を立て、支援方針を検討するケースフォーミュレーションの取り組みを行っている。高次脳機能障害者の職場復帰支援においては、対象者個人に直接介入する支援だけでなく、事業主への働きかけや職場の環境調整、地域の社会資源や家族との連携など様々な支援課題がある。ケースフォーミュレーションにICFの枠組みを活用することで、環境との相互作用の中で困難が生じると捉え、支援の対象となる課題は何で、どこにあるのかを複合的に分析的に整理することができる。この手法は、個別性がある障害が捉えにくく、多面的な困難がみられる高次脳機能障害者の職場復帰支援の支援方針を検討する上で有効であると考えている。

4 事業主支援に係る支援ツール

（高次脳機能障害者の職場復帰支援「参考資料集」）

(1) 概要

事業主が、高次脳機能障害を受障し休職中の従業員の職場復帰を検討するに当たって参考になる情報を参考資料集としてまとめている。資料集は、「高次脳機能障害とは」「高次脳機能障害の主な症状と合併することが多い障害・疾患」「職場復帰支援の流れ」「職場復帰支援のポイント」「職務や配置、労働条件検討の考え方」「職務内容検討のためのワークシート」「高次脳機能障害者の業務内容例」「高次脳機能障害に対する職場の合理的配慮例」「事例紹介」などの内容で構成される（図3）。

(2) コンセプト

支援者が対象者ととも職場復帰に向けた事業主との調整を行う際に、伝えたい知識やノウハウを分かりやすく助言するためのツールとして活用することを狙いとしている。

高次脳機能障害とはどのようなものか、職場復帰支援で事業主は何を行うべきか、職務内容や配属先をどうするか、必要な配慮事項は何か、職場の理解をどう得るか、など事業主が悩む内容に応じて、支援者が必要な資料を適宜アレンジしてアラカルト的に情報提供できるような形式を目指している。

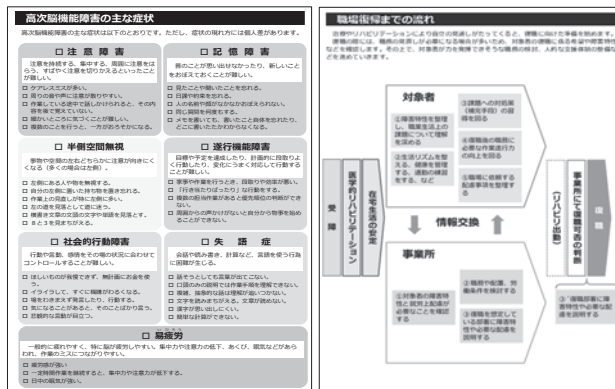


図3 高次脳機能障害者の職場復帰支援「参考資料集」

5 今後について

本稿で紹介した支援技法の内容や活用方法、事例等の詳細を取りまとめた実践報告書を令和4年3月に発行する予定である。なお、実践報告書の中では、上記支援ツールの他に、特性チェックシートから対象者自身が当てはまると考える障害特性をピックアップし、その障害特性ごとに必要な自己対処策や環境調整を整理し、プログラムで習得を目指す対処手段や事業主や周囲に依頼する配慮事項を明確化していくための支援ツール「リファレンスシート」や、解釈が難しい神経心理学的検査のわかりやすい解説の紹介を併せて行うこととしている。

6 最後に

高次脳機能障害者の職場復帰支援については、各支援現場における事例数は比較的少なく、また、個別性が高く見えにくい障害特性であり、支援ニーズが上がるたびに支援現場は手探りになることがあると聞く。職業センターにおいては、平成11年度から高次脳機能障害者に対する職場復帰支援プログラムを実施しており、アセスメントやケースフォーミュレーション、事業主支援などに係るノウハウを取りまとめ、対象者や事業主、支援者による円滑な職場復帰支援に資するものとした。

【参考文献】

- 1) 障害者職業総合センター、「幕張ストレス・疲労アセスメントシート MSFASの活用のために」、(2010)
- 2) 下山晴彦、「改訂版認知行動療法」,NHK出版,(2020)

【連絡先】

大工 芙実子
障害者職業総合センター職業センター開発課
e-mail : Daiku.Fumiko@jeed.go.jp